

1. 科目名（単位数）	教育学概論（初等・小）（2 単位）	3. 科目番号	EDTE1101
2. 授業担当教員	石崎 達也		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	本科目は教育という営みに深い関心を持ち、「教育とは何か」ということを考え始めている人に対し、教育（学）の基本的な概念と基礎理論について概括することを通して、受講者一人ひとりが、教育（学）の観点から今日の「子ども」を取り巻く環境の変化をふまえた「よりよい教育」のあり方を考える上で求められる基礎的知識の修得を目的とする。具体的には、主に教職に携わるための土台となる教育の基本的概念や理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかについて、受講者同士の対話をとおして理解を深めて行く。		
8. 学習目標	本講義は、本科目の目的を達成するために、以下の目標を設定する。 1. 教育学に関する基礎的・基本的内容を確実に習得すること。 2. 教育のさまざまな側面に触れることで、各自のこれまでの教育概念を揺さぶり、それぞれが教育という営みを再考できるようになること。 3. 教育に関する代表的な論考やアプローチから教育の射程の広さを学び、教育理解に関する柔軟さ、そして教育実践における覚悟と責任と寛容さを培えるようになること。 4. ディスカッションや発表を通して、表現力やコミュニケーション能力の向上を図ること。		
9. アサインメント （宿題）及びレポート課題	平常点（毎回の講義内容に対するリアクションペーパーあるいは課題に対する小テスト・レポートの提出）と期末の課題提出による。 ＊詳細は初回に説明する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 金龍哲、深沢和彦編『教育の原理と実践』三恵社、2024。 【参考書】 今井康夫『教育思想史』有斐閣アルマ、2009。 牛渡敦著『教育学原論』中央法規出版、2008。 江原武一・山崎高哉著『基礎教育学』放送大学教育振興会、2010。 勝野正章・庄井良信『問いからはじめる教育学』有斐閣、2015。		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 1. 教育学の基本的概念・教育に関する歴史・思想を理解しているか。（知識・理解） 2. 教育理解に関する柔軟さ、保育・教育実践に求められる態度・姿勢を身につけることができたか。（関心・意欲・態度） 3. 教育学に関する基本的な理論を理解した上で、教育という営みを再考することができるようになり、ディスカッションや発表を通して自分の意見を伝える力を身につけることができたか。（判断力・表現力） 以上の観点をふまえ、下記の1～3によって評価する。 ○評定の方法 【授業への取り組み姿勢、授業内での課題提出、期末レポート等を総合して評価する。】 1. 授業への取り組み姿勢（ディスカッションやグループワークへの積極的参加度） 総合点の30% 2. 授業内での課題提出（小テスト・中間レポート等） 総合点の40% 3. 期末課題 総合点の30%		
12. 受講生への メッセージ	社会の変化とともに、「教師」に対する親や社会の期待はますます高まっている。そこで、教育現場における「教師」として、さまざまなニーズに対応するための「問題解決能力」「コミュニケーション能力」の向上が課題となっている。受講生の皆さんには、この授業の中では失敗や間違いを恐れず積極的に発言・発表すること、また同じ目標をもった受講生同士が協力して課題に取り組み、学び合うことを期待している。 【学生に期待される学習態度】 受講生の皆さんは、上記のような目的を達成するために下記の内容に留意してほしい。 ① 教師と受講生、受講生同士のコミュニケーションが学びの質を高める。グループワークには積極的に取り組み、課題意識をもって臨んでほしい。 ② 授業に臨むにあたって無断欠席、遅刻、早退、無断退出をしないこと。（欠席、遅刻、早退をした場合は、その理由を必ず教員に書面にて報告すること。正当な理由であっても、必要な時間数に不足する場合は不合格とする。） ③ 明らかに授業態度が悪いと判断した際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られないと判断した場合、試験の答案内容如何にかかわらず、不合格とする。 ④ 授業中、私語、居眠りはしないこと。 ⑤ 授業中、使用の指示がない場合は、スマートフォン等の電子機器端末は電源を切っておくこと。 【教員の心がまえ】 ① 授業の目的・目標を明確に示し、授業の進行はできるかぎりシラバスに沿って行う。 ② 受講生全員に伝わるような声で話をする。また専門用語を用いた際は、わかりやすく説明する。 ③ 一方通行の講義だけを行うのではなく、グループワークやディスカッションなどを取り入れながら受講生全員が意見を出しあえるような双方向対話型の学習環境をつくる。 ④ 遅刻・早退・授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用、無断退出、その他、授業に臨むうえで不適切と思われる態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。		
13. オフィスアワー	講義の中で通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			

講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス 【あなたの「教育観」をみつめてみよう】	事前学習	シラバスを読み、自らの教育のイメージについて考えてくること。
		事後学習	本講義の学び方について復習するとともに、他の受講者の意見から学んだことについてレポートすること。
第2回	教育の意義・目的（1） 教育とは何か	事前学習	教科書を読み、「教育とは何か」という問いに対する自分の意見をまとめてくること。
		事後学習	「教育とは何か」を探究する手がかりに関して、他の受講者の意見をふまえ、自らの意見をまとめたレポートを作成すること。
第3回	教育の意義・目的（2） 公教育の制度的展開	事前学習	教科書を読み、「公教育の制度的展開」について理解してくること。
		事後学習	今日の公教育制度としての学校教育について学んだことを他の受講者にわかりやすく説明できるレポートを作成すること。
第4回	教育に関する歴史と思想 教育の思想家たち・発見された子ども	事前学習	教科書を読み、代表的な教育の思想家に関する調べ学習を行ってくること。
		事後学習	教育の思想を学ぶことの意味について、他の受講者の意見をふまえ、自らの意見をまとめたレポートを作成すること。
第5回	学力・学習に関する思想（1） 21世紀型学力	事前学習	教科書を読み、「21世紀型学力」に関する調べ学習を行ってくること。
		事後学習	これからの時代に求められる学力について、自らの意見をまとめたレポートを作成すること。
第6回	学力・学習に関する思想（2） 知ることを学ぶ	事前学習	教科書を読み、子どもがよく学ぶために必要なことについてまとめてくること。
		事後学習	「知ることを学ぶ」について、他の受講者の意見をふまえ、自らの意見をまとめたレポートを作成すること。
第7回	学校教育における道徳教育 教科としての道徳教育	事前学習	教科書を読み、「道徳教育」について理解してくること。
		事後学習	「道徳教育」について学んだことを他の受講者にわかりやすく説明できるレポートを作成すること。
第8回	学校における生徒指導 生徒指導の意義と原理と仕組み	事前学習	教科書を読み、「生徒指導」について、自らの意見をまとめてくること。
		事後学習	あなたの身近にある生徒指導に関する事例を取り上げてレポートを作成すること。
第9回	学級経営	事前学習	教科書を読み、「学級経営」について理解してくること。
		事後学習	「学級経営」について、他の受講者の意見をふまえ、自らの意見をまとめたレポートを作成すること。
第10回	学校経営・教育行政	事前学習	教科書を読み、「学校経営・教育行政」について理解してくること。
		事後学習	「学校経営・教育行政」について、他の受講者の意見をふまえ、自らの意見をまとめたレポートを作成すること。
第11回	生涯学習 生涯学習という生き方	事前学習	教科書を読み、「生涯学習」について理解してくること。
		事後学習	あなたの身近にある身近な生涯学習・社会活動の実践に関するレポートを作成すること。
第12回	保育と幼児教育	事前学習	教科書を読み、「保育と幼児教育」について理解してくること。
		事後学習	「保育と幼児教育」について、他の受講者の意見をふまえ、自らの意見をまとめたレポートを作成すること。
第13回	文化多様性と教育	事前学習	教科書を読み、文化多様性の理念を理解してくること。
		事後学習	学校における身近な文化多様性の実践に関するレポートを作成すること。
第14回	教育改革の動向	事前学習	教科書を読み、これからの教育のあり方について、自らの意見をまとめてくること。
		事後学習	「教育改革の動向」について、他の受講者の意見をふまえ、自らの意見をまとめたレポートを作成すること。
第15回	ふりかえりと授業評価	事前学習	教科書、配布資料を読みなおし、これまでの授業内容について学んだことを整理してくること。
		事後学習	授業内容をふまえた上で、期末課題に取り組むこと。